

【令和7年度評価】中項目ごとの検証・確認における論点整理等

自己評価の区分		判断の目安
IV	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
III	概ね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
II	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
I	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																								
		<u>・特に進捗した取組</u> ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																							
01	1 医療機器の計画的な更新・整備 この地域で提供可能な急性期医療を推進するため、中期目標の期間における更新及び整備計画を策定し、医療機器の計画的な更新・整備を進める。 医療機器の整備及び更新に当たっては、稼働率や収支の予測を十分に行った上で進めるとともに、これらの医療機器の持つ能力を十分引き出せるような技術の取得及びレベルアップができるような体制を整備し、測定機器の校正等精度管理を徹底する。 3 ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）等の活用 マイナ保険証の利用を促進するとともに、診療の効率化、医療従事者の負担軽減につながる ICT やAI 等の活用について調査・検討を行う。 ICT の活用により、画像情報を含めた詳細な臨床情報を転送先医療機関へ効率的に伝達することで、適切な搬送フローを確立するなど、関係医療機関との連携体制を図る。	1 医療機器の計画的な更新・整備 ・高額な医療機器については、補助金等の活用を図ることを更新・整備の条件としている。 ・令和7年度は、へき地医療拠点病院設備整備費補助金を活用し、生体情報モニター、過酸化水素ガス滅菌器及びデジタル式乳房 X 線診断装置を更新し、また、下呂市地域医療確保施設設備整備事業補助金を活用して外科用 X線撮影装置を更新し、診療機能の向上を図った。 更新・整備を実施した医療機器の稼働件数 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>整備 年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>内視鏡^①デオシステム(上部)</td><td>H25</td><td>1,177</td><td>1,411</td><td>1,304</td></tr><tr><td>X-TV 透視診断装置</td><td>H25</td><td>289</td><td>325</td><td>245</td></tr><tr><td>MRI（超伝導磁気共鳴画像診断装置 1.5T)</td><td>H25</td><td>1,741</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>手術用顕微鏡^②システム</td><td>H28</td><td>4</td><td>4</td><td>7</td></tr><tr><td>内視鏡^③デオシステム(下部)</td><td>H29</td><td>561</td><td>580</td><td>504</td></tr><tr><td>ガンマカメラ</td><td>H30</td><td>170</td><td>160</td><td>172</td></tr><tr><td>全身用 X 線 CT 装置</td><td>R2</td><td>3,476</td><td>5,494</td><td>6,327</td></tr><tr><td>回診用 X 線撮影装置</td><td>R3</td><td>508</td><td>410</td><td>423</td></tr><tr><td>血管撮影装置</td><td>R3</td><td>54</td><td>39</td><td>68</td></tr><tr><td>MRI（超伝導磁気共鳴画像診断装置 1.5T)</td><td>R5</td><td>0</td><td>1,984</td><td>1,928</td></tr></table>	項目／年度	整備 年度	R5	R6	R7	内視鏡 ^① デオシステム(上部)	H25	1,177	1,411	1,304	X-TV 透視診断装置	H25	289	325	245	MRI（超伝導磁気共鳴画像診断装置 1.5T)	H25	1,741	-	-	手術用顕微鏡 ^② システム	H28	4	4	7	内視鏡 ^③ デオシステム(下部)	H29	561	580	504	ガンマカメラ	H30	170	160	172	全身用 X 線 CT 装置	R2	3,476	5,494	6,327	回診用 X 線撮影装置	R3	508	410	423	血管撮影装置	R3	54	39	68	MRI（超伝導磁気共鳴画像診断装置 1.5T)	R5	0	1,984	1,928	III		
項目／年度	整備 年度	R5	R6	R7																																																								
内視鏡 ^① デオシステム(上部)	H25	1,177	1,411	1,304																																																								
X-TV 透視診断装置	H25	289	325	245																																																								
MRI（超伝導磁気共鳴画像診断装置 1.5T)	H25	1,741	-	-																																																								
手術用顕微鏡 ^② システム	H28	4	4	7																																																								
内視鏡 ^③ デオシステム(下部)	H29	561	580	504																																																								
ガンマカメラ	H30	170	160	172																																																								
全身用 X 線 CT 装置	R2	3,476	5,494	6,327																																																								
回診用 X 線撮影装置	R3	508	410	423																																																								
血管撮影装置	R3	54	39	68																																																								
MRI（超伝導磁気共鳴画像診断装置 1.5T)	R5	0	1,984	1,928																																																								

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見		
		デジタルX線TVシステム R604090 ※MRI（R5年度整備）はR6年4月からの稼働のため、R5年度は実績なし 3 ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）等の活用 ・AIやRPAを導入し、定型業務や事務作業の自動化を推進し、医療従事者の業務負担軽減を図った。これにより、書類作成やデータ入力などに要していた時間を削減し、患者対応や医療サービスの質向上により多くの時間を充てられる環境整備を進めた。 ・岐阜県循環器病医療ネットワーク構築事業にて、医療関係者間コミュニケーションアプリ「Join」を導入し、画像情報を他医療機関へ送信してコンサルテーションを依頼し、診療方針及び診断に関する回答を受けられる環境を構築した。					
02	3 医療に関する相談体制の充実 要望・意見等や苦情等へ迅速な対応ができる組織体制を充実するほか、患者から聴取した要望・意見等は、毎週開催するカンファレンスで検討等行ったうえ、月1回の医療相談室会議で情報共有する。 各部門ごとに「医療相談対応記録」を作成し、各相談対応を医療相談室において把握する体制を整備する。 また各部門において、検査や薬の相談窓口（医師説明の補助）を開設する。	3 医療に関する相談体制の充実 ・医療相談室について、医療相談カンファレンスを毎週開催し、職員間で情報共有を図るとともに、月1回、医療相談室会議を開催し、情報共有を行った。医療安全対策部門や患者サービス向上部門とも連携し、患者やその家族からの医療等に関する相談・苦情や入退院にかかる相談業務に対応した。 ・問題事象に至るリスクが懸念される事案については、情報を速やかに幹部へ報告することを徹底し、組織として初期段階で対応が行えるよう取り組んだ。 ・相談等については、面談中のプライバシーを尊重するなど、個人情報の取り扱いに十分注意し、患者が安心して相談できるよう努めた。	III				
03	1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実 病診連携機能を強化するとともに、患者の動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備及び充実を図る。 ・非常勤医師対応の診療科（泌尿器科、眼科等）の充実 ・生理検査（聴力検査、超音波検査）等検査業務の充実		III		リハビリテーション患者実数の増加は評価できる。 人材が集まらず大変ですが、引き続き頑張っていたきたい。		

項目 No.	R 7年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見
	・岐阜県総合医療センターとの連携を進め、受入方法、時間帯等の説明パンフレットを作成、必要に応じて配布していただくよう仕組み作りを進める。 ・チーム医療としてがんのリハビリテーションを進めるべく、がんのリハビリテーションチームを再編する。その上でがんのリハビリテーションを進めるに当たり必須となるがんのリハビリテーション研修会に参加、各種要件を整備していく。 ・依然として当院診療圏域において小児の言語聴覚士療法を希望する声が多いことから、言語聴覚士を1名採用し、小児に対する言語聴覚療法の対応可能人数の拡充を図るとともに、より充実した内容となるべく各種研修に参加させる。 ・高齢者の増加と嚥下機能低下患者の数は比例しており、対応可能な患者数の拡大と、より充実した摂食機能療法が行えるよう進めていく。 ・午後5時以降の夜間透析の実施 2 多様な専門職の積極的な活用 高度な専門性を有する職員の外部からの登用に当たり、その専門性に応じた処遇が可能となる柔軟な人事給与制度の構築を図る。 また、定年職員等に対する再雇用制度の活用を強化する。				
04	1 地域の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の維持・向上 地域の医療機関との連携を強化することで、紹介率（40%以上）、逆紹介率（50%以上）の維持・	1 地域の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の維持・向上 ・医事課の業務のうち、地域連携部門及び患者サービス部門を令和7年4月に発足した患者支援センターへ移管し、病診連携を強化するための組織改革を行った。	Ⅲ		在宅医療を行う医師からは、貴院が看取り体制等の対応を支援していただくことを、今まで以上に期待しています。

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																								
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																							
	向上を図る。 下呂市立金山病院との役割分担の明確化と連携を強化し、効率的で質の高い医療体制を確保する。 地域の医療機関による医療機器の共同利用や開放型病床の利用拡大に努めるなど、病病・病診連携を推進する。 また、理事長及び院長が下呂市医師会の会員であることから、当院で理事会を開催するなど引き続き協力体制を維持するほか、下呂市市民保健部との医療関係課長会議に参加し、意見交換を行うなど連携を図る。 消防本部との情報交換会、ぎふ救急ネットの活用等により、適切な救急搬送フローの確立等、地域の救急医療の充実強化を図る。	・ 近隣の医療機関との連携強化を推進し、地域診療所（かかりつけ医）と当院の役割分担（病診連携）に努めた。 ○ 紹介率・逆紹介の状況 単位：件 <table><tr><th></th><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td rowspan="4">医 科</td><td>紹介率（%）</td><td>38.1</td><td>43.8</td><td>31.9</td></tr><tr><td>紹介実施件数</td><td>2,163</td><td>2,291</td><td>1,778</td></tr><tr><td>逆紹介率（%）</td><td>60.3</td><td>56.8</td><td>67.0</td></tr><tr><td>逆紹介実施件数</td><td>3,891</td><td>3,463</td><td>4,226</td></tr><tr><td rowspan="4">歯 科</td><td>紹介率（%）</td><td>54.3</td><td>53.5</td><td>49.2</td></tr><tr><td>紹介実施件数</td><td>338</td><td>306</td><td>313</td></tr><tr><td>逆紹介率（%）</td><td>32.5</td><td>49.6</td><td>52.7</td></tr><tr><td>逆紹介実施件数</td><td>203</td><td>294</td><td>334</td></tr></table> ○ 下呂市立金山病院及び小坂診療所との連携 ・ 下呂市立金山病院等からの診療依頼を受けて、医師を派遣するなどの連携体制を整えている。令和7年度は診療依頼がなかったため、実績なし。 【外科医】 外来診療（派遣回数0回） 【整形外科医】 手術（派遣回数0回） ○ 感染対策に関する訪問指導 感染対策向上加算1、指導強化加算算定要件に関する訪問指導として下呂市立金山病院に対して、訪問指導を計4回実施した。（8月26日、10月15日、11月10日、12月3日）		項目／年度	R5	R6	R7	医 科	紹介率（%）	38.1	43.8	31.9	紹介実施件数	2,163	2,291	1,778	逆紹介率（%）	60.3	56.8	67.0	逆紹介実施件数	3,891	3,463	4,226	歯 科	紹介率（%）	54.3	53.5	49.2	紹介実施件数	338	306	313	逆紹介率（%）	32.5	49.6	52.7	逆紹介実施件数	203	294	334			Ⅲのままで“可”ですが、紹介率・逆紹介率の向上は努力で可能であると考えられますし、クリニカルパスの導入も同様です。もともとの実績が低いので、例年通りの評価は妥当ですが、より努力が望まれます。
	項目／年度	R5	R6	R7																																								
医 科	紹介率（%）	38.1	43.8	31.9																																								
	紹介実施件数	2,163	2,291	1,778																																								
	逆紹介率（%）	60.3	56.8	67.0																																								
	逆紹介実施件数	3,891	3,463	4,226																																								
歯 科	紹介率（%）	54.3	53.5	49.2																																								
	紹介実施件数	338	306	313																																								
	逆紹介率（%）	32.5	49.6	52.7																																								
	逆紹介実施件数	203	294	334																																								
05		1 へき地医療の拠点的機能の充実 ・ 飛騨南部地域の基幹病院として、不採算部門となりやすい救急・小児・産科医療の提供維持に努めた。 ・ 前年度に引き続き、下呂市が実施する産婦支援事業（産後ケア、産婦健診助成事業、母乳育児支援事業）に協力した。また、下呂市から引き続き乳幼児健診業務を受託するなど、地域連携による周産期から、乳幼児期の支援体制づくりに寄与した。 ○ 乳幼児健診等の実施状況 ・ 4ヶ月児健診 14回、110人	Ⅲ		リハビリについて評価できる。 回復期リハ及び在宅復帰への協力を																																							

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																													
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																												
		・ 3 歳児健診 12回、101人 ・ 1 歳 6 ヶ月健診 12回、 80人 2 リハビリテーションの推進 ○ リハビリテーションの実施状況 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>実人数</td><td>31,193 人</td><td>41,881 人</td><td>43,327 人</td></tr><tr><td>疾患別リハ実施数</td><td>83,694 単位</td><td>86,302 単位</td><td>98,069 単位</td></tr></table> ○ 各種認定資格等の取得を推進し、リハビリテーションの充実 ・ 早期離床の推進、及び退院後の生活を見据えた住環境整備等の指導に当たった。令和7年度はリハビリ退院前後の訪問指導を18 件行った。 認定資格等取得者数 単位：人 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>呼吸認定療法士</td><td>4</td><td>4</td><td>3</td></tr><tr><td>福祉住環境コーディネーター</td><td>18</td><td>19</td><td>15</td></tr></table> ○ 疾病、病状に応じたきめ細やかなリハビリテーションの実施 リハビリテーション患者実数 単位：人 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>小児リハビリ</td><td>64</td><td>63</td><td>82</td></tr><tr><td>手外科リハビリ</td><td>57</td><td>48</td><td>41</td></tr><tr><td>心臓リハビリ</td><td>21</td><td>44</td><td>49</td></tr></table> ○ 訪問リハビリテーションの実施 ・ 地域住民が住み慣れた自宅で生活を継続しながら、個々の生活環境に即した支援及び機能維持・回復訓練を受けられるよう、令和7年度に訪問リハビリテーションを開設した。これにより、利用者の自立度及び生活の質の向上が図られたほか、家族の介護負担の軽減や、入院・施設入所の予防につながり、地域の医療・介護体制の安定に寄与した。 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R7</td></tr><tr><td>訪問リハビリ契約件数</td><td>7</td></tr></table>	項目／年度	R5	R6	R7	実人数	31,193 人	41,881 人	43,327 人	疾患別リハ実施数	83,694 単位	86,302 単位	98,069 単位	項目／年度	R5	R6	R7	呼吸認定療法士	4	4	3	福祉住環境コーディネーター	18	19	15	項目／年度	R5	R6	R7	小児リハビリ	64	63	82	手外科リハビリ	57	48	41	心臓リハビリ	21	44	49	項目／年度	R7	訪問リハビリ契約件数	7			
項目／年度	R5	R6	R7																																														
実人数	31,193 人	41,881 人	43,327 人																																														
疾患別リハ実施数	83,694 単位	86,302 単位	98,069 単位																																														
項目／年度	R5	R6	R7																																														
呼吸認定療法士	4	4	3																																														
福祉住環境コーディネーター	18	19	15																																														
項目／年度	R5	R6	R7																																														
小児リハビリ	64	63	82																																														
手外科リハビリ	57	48	41																																														
心臓リハビリ	21	44	49																																														
項目／年度	R7																																																
訪問リハビリ契約件数	7																																																

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																																
		5 在宅療養支援体制の構築及び推進 ○ 地域包括ケア病棟・療養病棟 ・病床機能の見直しを行い、西4階病棟の地域包括ケア病棟について、東4階病棟の病床を活用して 60 床体制へ変更した。また、東3階病棟の急性期病床を西5階病棟へ移動した。 ・西4階病棟については、看護師数の減少に伴い、7月から9月は 38 床、10月から1月は50 床、2月～3月は38 床で運用した。 <table><tr><th colspan="2">病棟名・区分／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td rowspan="4">東4階</td><td>延べ患者数</td><td>4,872 人</td><td>4,679 人</td><td>－</td></tr><tr><td>病床利用率</td><td>35.0%</td><td>71.2%</td><td>－</td></tr><tr><td>在宅復帰率</td><td>80.0%</td><td>84.3%</td><td>－</td></tr><tr><td>平均在院日数</td><td>49.6 日</td><td>28.9 日</td><td>－</td></tr><tr><td rowspan="4">西4階</td><td>延べ患者数</td><td>9,017 人</td><td>10,478 人</td><td>16,103 人</td></tr><tr><td>病床利用率</td><td>64.8%</td><td>75.5%</td><td>70.5%</td></tr><tr><td>在宅復帰率</td><td>82.7%</td><td>84.9%</td><td>81.7%</td></tr><tr><td>平均在院日数</td><td>22.2 日</td><td>25.5 日</td><td>19.1 日</td></tr><tr><td rowspan="4">東3階</td><td>延べ患者数</td><td>6,352 人</td><td>－</td><td>8,196 人</td></tr><tr><td>病床利用率</td><td>62.0%</td><td>－</td><td>78.8%</td></tr><tr><td>在宅復帰率</td><td>88.3%</td><td>－</td><td>87.1%</td></tr><tr><td>平均在院日数</td><td>14.3 日</td><td>－</td><td>51.8 日</td></tr></table> ※令和7年度は、4階は東西を合わせて1病棟として運用。便宜的に「西4階」として計上 ※在宅復帰率は6ヶ月平均の3月末値 ○ 継続看護連絡会議 ・定期的に退院調整フローチャートの見直しを行い、外来で継続看護が必要な患者についての会議を開催した。令和7年度は前年度と比較して会議実施件数が減少した。今後も継続して取り組む。 会議実施件数 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>継続看護連絡会議</td><td>54</td><td>67</td><td>36</td></tr></table> ○ 介護者及び関係施設職員に係る褥瘡指導 ・皮膚・排泄ケア認定看護師が、メール、電話、手紙などによる相談に対応した	病棟名・区分／年度		R5	R6	R7	東4階	延べ患者数	4,872 人	4,679 人	－	病床利用率	35.0%	71.2%	－	在宅復帰率	80.0%	84.3%	－	平均在院日数	49.6 日	28.9 日	－	西4階	延べ患者数	9,017 人	10,478 人	16,103 人	病床利用率	64.8%	75.5%	70.5%	在宅復帰率	82.7%	84.9%	81.7%	平均在院日数	22.2 日	25.5 日	19.1 日	東3階	延べ患者数	6,352 人	－	8,196 人	病床利用率	62.0%	－	78.8%	在宅復帰率	88.3%	－	87.1%	平均在院日数	14.3 日	－	51.8 日	項目／年度	R5	R6	R7	継続看護連絡会議	54	67	36			
病棟名・区分／年度		R5	R6	R7																																																																	
東4階	延べ患者数	4,872 人	4,679 人	－																																																																	
	病床利用率	35.0%	71.2%	－																																																																	
	在宅復帰率	80.0%	84.3%	－																																																																	
	平均在院日数	49.6 日	28.9 日	－																																																																	
西4階	延べ患者数	9,017 人	10,478 人	16,103 人																																																																	
	病床利用率	64.8%	75.5%	70.5%																																																																	
	在宅復帰率	82.7%	84.9%	81.7%																																																																	
	平均在院日数	22.2 日	25.5 日	19.1 日																																																																	
東3階	延べ患者数	6,352 人	－	8,196 人																																																																	
	病床利用率	62.0%	－	78.8%																																																																	
	在宅復帰率	88.3%	－	87.1%																																																																	
	平均在院日数	14.3 日	－	51.8 日																																																																	
項目／年度	R5	R6	R7																																																																		
継続看護連絡会議	54	67	36																																																																		

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証				
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見			
		(45 件)。また、関係施設職員に対する褥瘡ケア指導を行った。 褥瘡ケア指導件数 単位：件 <table><tr><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>41</td><td>40</td><td>45</td></tr></table> ○ 外来継続用紙 ・ 外来部門では、「外来継続用紙」を基に患者情報を共有し、継続看護が必要な患者に対して、生活指導を行うことができた。 ・ 認知症が進行し調子が悪くなった、施設に入ったなどの理由により、対象者が減少している。 ・ 外来看護師による在宅療養に係る指導等を実施し、指導料等を算定した。 ①在宅療養指導料 222 件（全て外来） ②在宅自己注射指導管理料 478 件（外来 461、入院中 17） ③ストーマ処置 157 件（全て外来） ④寝たきり管理料 110 件（外来 88、入院中 22） ⑤がん患者指導料（ロ） 28 件（外来 1、入院中 27） ○ 在宅患者訪問看護・指導（専門性の高い訪問看護実施） ・ 平成 28 年度から、通院が困難な在宅療養を行っている患者に対し、計画的な訪問看護を実施している。【No. 04 再掲】 訪問看護・指導実施件数	R5	R6	R7	41	40	45
R5	R6	R7						
41	40	45						

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見
10	1 地域医療水準の向上 二次救急医療体制の課題検討のため、下呂市及び中津川市の両消防本部と当院医師及びコメディカルとの情報交換会を開催し、症例発表や講演会を通じた地域メディカルコントロールの連携強化を図る。令和6年度から Web を利用することにより、情報交換会参加者にとどまらず、消防署内で出動に備え待機中の職員等も視聴可能となったが、当院に救急搬送することがある可茂消防事務組合（東白川村）等に範囲を広げることも検討する。 また、岐阜メディカルコントロール協議会飛騨支部感染防止委員会に参加し、共同して病院前救護における感染対策活動に取り組む。 さらに、病診連携を推進し、開業医との情報交換を積極的に行うとともに、医療機器の共同利用や開放型病床の利用促進により地域医療の向上を図る。 2 医師不足地域や医師不足診療科、へき地診療所等への人的支援を含む診療支援による地域医療の確保 飛騨及び中濃圏域のへき地診療所や医師不足地域の医療機関等への診療支援を行う。		III		開放型病棟を広げて、近隣の医師からの在宅療養時の一時的な入院にも対応していただきたい。

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証													
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見												
12	1 公開講座、医療相談会等の定期的開催 一般市民向けの公開講座や医療に関する相談会を定期的に開催し、保健医療・各種福祉制度に関する情報提供、情報発信を行う。 2 保健医療、健康管理等の情報提供 病院が有する保健医療情報について、病院広報誌「健康と医療」の発行やホームページ等により情報発信を行う。 地域住民を病院に招いて様々な医療機器の見学・説明等や、最近の医療の進歩等の講演会を行うなど病院を知ってもらう活動に取り組む。 また、将来の職業選択に役立てられるよう、中学生・高校生対象に医療職従事者の業務体験や学校訪問等を開催する。		Ⅲ		人材確保の面でも継続が望ましい。												
15	1 新興感染症発生時における受入体制の整備 指定地方公共機関として、新型インフルエンザ等対策特別措置法及び業務計画に定めるところにより、岐阜県、関係市町及び医療機関と相互に連携・協力し、新型インフルエンザ等への対策の実施に努める。 また、業務計画の定期的な見直し等により受入体制の充実を図るとともに、必要な物資及び資材の備蓄・整備・点検、施設及び設備の整備・点検を実施する。 2 業務計画等に基づく職員への教育及び訓練の実施 新型インフルエンザ等発生時において速やかに対処できるよう職員への教育及び訓練等を実施し、計画の検証を行う。 令和7年度は飛騨圏域の新型インフルエンザ等感染症対応訓練を当院と下呂市消防本部で実	1 新型インフルエンザ等発生時における受入れ体制の整備 ・令和6年7月30日に岐阜県と医療措置協定を締結し、感染症発生・まん延時に迅速かつ適格な措置を講ずるための専用病床（最大62床）を確保する体制を構築した。【No. 5再掲】 新型コロナウイルス感染症患者受入実績【No. 05再掲】単位：人 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr><tr><td>受入患者数</td><td>338</td><td>134</td><td>256</td></tr><tr><td>累計患者数</td><td>626</td><td>760</td><td>1,016</td></tr></table> ※累計患者数は、受入開始（R2年度）以後の累計患者数 ※各年度末時点 ・国や岐阜県から支給された个人防护具を有効に活用するため、種類、数量を細かく在庫管理し、適正使用につなげるとともに、支給要望の照会に対応した。 ・飛騨地域新型インフルエンザ等感染症対応訓練（10月11日）に参加した。	項目／年度	R4	R5	R6	受入患者数	338	134	256	累計患者数	626	760	1,016	Ⅲ		引続き、地域救急医療の要としての働きを期待しています。
項目／年度	R4	R5	R6														
受入患者数	338	134	256														
累計患者数	626	760	1,016														

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証													
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見												
	施する予定であり、それに伴い、下呂市消防本部と共同して飛騨保健所所有のアイソレーターとアイソボットの使用方法勉強会を実施する。																
16	後発医薬品の使用率向上 医薬品の有効性・安全性及び使用状況等を考慮し、後発医薬品へ変更するなど、後発医薬品の使用を促進する。	・後発医薬品の使用については、品目ベースで6.1pt、使用数量ベースで12.9ptの増加となった。使用状況は堅調に推移しており、令和7年度は使用数量ベースで8割を超え、令和8年3月から後発医薬品使用体制加算2の算定が可能となった。引き続き、先発医薬品からオーソライズドジェネリック医薬品への切り替えを中心に、効率的な後発医薬品の採用を進めていく。 ○ ジェネリック医薬品の採用比率 単位：％ <table><tr><td>項目／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>品目ベース</td><td>12.3</td><td>13.3</td><td>19.4</td></tr><tr><td>使用数量ベース</td><td>50.8</td><td>69.9</td><td>82.8</td></tr></table> ※使用数量ベース 後発医薬品／（後発＋先発医薬品）	項目／年度	R5	R6	R7	品目ベース	12.3	13.3	19.4	使用数量ベース	50.8	69.9	82.8	IV		
項目／年度	R5	R6	R7														
品目ベース	12.3	13.3	19.4														
使用数量ベース	50.8	69.9	82.8														
18	1 人員配置の検証及び適正化 医療需要の変化や患者の動向及び経営状況の変化に迅速かつ的確に対応するため、組織及び職員配置の在り方を常に検証し、ダウンサイジングを踏まえた病院機能再編等、診療体制の適正化に努める。 また、適正かつ弾力的な医師・看護師等の配置により、効率的な業務運営に努める。 特に看護師については業務量に応じ柔軟な職員配置を行うため、看護補助者、医療事務作業補助者の確保に務め、ライセンスが不要な業務について補助する体制を整えると共に、看護補助者の確保のため派遣による人員確保を検討する。 さらに、病棟薬剤業務実施加算の取得に向けて、薬剤師等を確保し、マニュアルや業務の具体的内容等を整備するとともに、薬剤師の病棟配置について検討を行う。 その他、障がい者雇用に努め、適切な職員配置		III		支援時間に大きな変化がみられている。												

項目 No.	R 7年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見
	を促進する。				
20	1 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保 より質の高い医療を安定的に提供するため、医師、看護師、薬剤師等医療従事者の確保、定着を図る。 特に、医師の勤務条件を緩和するため医師確保と医師定着化の取組みとして、次の事項を実施する。 ・下呂温泉病院勤務医師、岐阜大学地域医療医学センター医師等が地域の教育研究を実践する場として設置している地域医療研究研修センターにおいて、地域医療を志す医師の養成 ・定年を迎えた医師のうち、質の高い医療の提供に寄与すると認められる者の再雇用 ・医師募集エージェントへの登録 ・医療ニーズに柔軟かつ迅速に対応できる非常勤医師の活用 ・医師の業務負担の軽減を図るため、医師事務作業補助者の充実 ・地元出身者や地元関係者への働きかけ（ガイダンス・企業説明会参加） 看護師負担の軽減のため、現行のパートナーシップナーシング・システム（PNS）看護方式を見直すとともに看護補助者の適正配置等支援体制及び資質向上のための研修の充実を図る。また、看護体制維持に必要な看護師数の確保を図るため、ワーク・ライフ・バランス（WLB）の推進、再就職支援者研修、学校訪問及びインターンシップ開催等に取り組む。 ・地元出身者及び地元関係者への働きかけ（ガ		III		臨床研修指定病院であるため、基本診療科の人材確保に努めてほしい。

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見
	イダンス・企業説明会参加) ・病院ホームページや地域情報誌等を通じた情報発信 ・募集エージェントへの登録検討 薬剤師確保の取組みとして、次の事項を実施する。 ・薬学部のある大学教員や薬学生との交流や行事等への参加の推進 ・地元出身者及び地元関係者への働きかけ（ガイダンス・企業説明会参加） ・病院ホームページや地域情報誌等を通じた情報発信 ・薬剤業務補助者の活用による薬剤師の負担軽減及び病棟業務やチーム医療への業務展開の維持・推進 ・薬剤師募集エージェントへの登録 2 大学等関係機関との連携や教育研修の充実による優れた医師の養成 岐阜大学地域医療医学センター及び岐阜県総合医療センター等との連携により臨床研修医の受入れ及び指導体制の充実を図り、特に地域医療を志す医師を養成する。				
23	2 情報セキュリティや個人情報保護に対する教育 自己点検及び院内研修の実施等により、職員の情報セキュリティ及び個人情報保護の意識の向上を図る。		Ⅲ		研修参加の状況を示した方がよい。
24	多様な契約手法の導入 複数年契約等の多様な契約手法の導入により、契約事務の合理化を図る。また、より有利な契約交渉を実践していくために、ベンチマークシステ		Ⅲ		経費節減に努めている。

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見
	ムの導入、地域に隣接する他病院との共同購入体制の可否等を検討・協議する。 さらに、既に締結した保守契約については、委託内容や方法を見直し、病院全体として支出を抑えていくよう精査を行う。				
25	1 効果的な病床管理及び医療機器の効率的な活用 病床利用率については、常勤医師の確保により入院患者数の増加を目指すとともに、病棟ごとの稼働率を常に把握し、病院全体として効果的で効率的な病床管理を徹底することで、病床利用率80%以上を目指す。 また、開放型病床の活用に努め、地域の医療機関と共同で治療を行うことにより、病診連携の強化とともに収益確保を図る。 医療機器については、医師確保により稼働率の向上を目指すとともに、有効活用の視点から開業医等の共同利用促進に努める。 2 人間ドック等の積極的な受入れ 健康診断の最も基本的なコースである人間ドックの積極的な受入れや下呂市健診・検診の拡大により収入の確保に努める。		Ⅲ		病床利用率が改善してきている。 レスパイト入院、重度医療が必要な在宅患者のショートステイにも対応していただきたい。 Ⅲのままで“可”ですが、一日人間ドックやMRI は増加させることが比較的容易だと思いますので、より一層力を入れていただきたいと思います。
26	2 後発医薬品等の使用促進 後発医薬品使用体加算 3 を維持しつつ、注射薬の後発医薬品への切り替えを進めて、金額ベースでの後発品使用率の改善を図る。 3 人件費の適正化 「生活の場の医療」の提供、政策的な医療提供体制の維持・推進、患者・住民サービスの向上等に十分配慮した上で、職員の適正配置や時間外勤務	2 後発医薬品の使用促進 ・後発医薬品の使用については、品目ベースで6.1pt、使用量ベースで12.9ptの増加となった。使用状況は堅調に推移しており、令和7年度は使用数量ベースで8割を超え、令和8年3月から後発医薬品使用体制加算2の算定が可能となった。引き続き、先発医薬品からオーソライズドジェネリック医薬品への切り替えを中心に、効率的な後発医薬品の採用を進めていく。 ・ ○ ジェネリック医薬品の採用比率			

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証		
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）				自己 評価	評価 提案	意見
	務手当の縮減等の取組により、人件費の適正化に努める。	使用数量ベース	50.8	69.9	82.8			
		※使用数量ベース 後発医薬品／（後発＋先発医薬品）						
27	「2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、中期目標期間の各年度の損益計算において、減価償却前収支の黒字化を早期に達成し、中期目標期間の最終年度までに経常収支比率 100%以上、医業収支比率 100%以上及び職員給与費対医業収益比率 75%以下を達成する。					Ⅱ		さらなる努力が望まれる。
29	医師の診療応援や医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の人事交流等、岐阜県及び岐阜県が設立した他の地方独立行政法人との連携を推進する。					Ⅲ		さらなる連携を期待。